

舞台に魅せられて。

珠玉のときを紡ぐ
五人の調べ。

大山紗奈／竹原 由香里
田中逸斗／細川元之／前田 瞳



田中 逸斗

2019年度
ミュージックコミュニケーション専攻卒

(公財) 箕面市メイプル文化財団
芸術創造セクション チーフコーディネーター

大音での実践経験が何よりの強み
魅力あふれるコンサートがこれからの目標

(公財) 箕面市メイプル文化財団の芸術創造セクションチーフコーディネーターとして、同財団が指定管理者となっているグリーンホール（箕面市立会館）で働いています。自主事業の企画に始まり、窓口対応や貸館のサポートなど、携わる業務はさまざま。約30人という小規模で運営しているからこそ、セクションごとに業務を縦割りせず、スタッフ全員がオールマイティーに動けることが良い部分だと感じています。



学生時代、数多くの企画を通して、企画書の書き方やイベントが開催されるまでの流れを学んできたことが今の業務に活かされている部分。また、スタッフや演者さんとスムーズにコミュニケーションが取れるのは大音で音楽に関する基礎的な知識を吸収してきたからこそ強みだと思います。収支の考え方や助成金獲得のノウハウなど、「仕事」として企画に関わる厳しさ、難しさを感じることもたくさんありますが、上司や先輩のサポートも受けながら一歩ずつ成長していきたいと考えています。

市民の皆さんに上質な演奏をお届けし、文化の向上に寄与することが私たちの使命であり、企画者として「満員御礼」は常に目指していきたいと思っています。すでにホールをご利用いただいている方だけでなく、今まで関心を持っていなかった方や若年層にも足を運んでいただけるような、魅力あふれるコンサートの企画がこれからの目標。大音卒として、いつかはオペラ公演も開催したいと考えています。



大山 紗奈

2019年度
ミュージックコミュニケーション専攻卒

(株) 常翔ウェルフェア
梅田総合サービスセンター 低層階施設貸与

数多くの実践で磨いた対応力
お客様とイベントを作り上げるやりがい

学校法人常翔学園の関連会社に入社し、大阪工業大学 OIT 梅田タワー内にある常翔ホールのスタッフとして働いています。“Music&Knowledge”をコンセプトとするこのホールでは、大学の授業や学会、講演会をはじめ、音楽イベントなど一般向けの貸館も実施しており、私は事前の打ち合わせやイベント当日の音響・照明など技術的なサポートを担当しています。大学時代も機材に触れる機会はありましたが、まだまだ分からないことだらけ。業務の中で疑問点があれば、その都度ス

タッフに質問してスキルアップに努めています。一期生として入学したミュージックコミュニケーション専攻。私にとっても専攻にとっても、すべてのことが「初めての経験」でした。その分、自由度が高く、関わる企画によって自分の役割を決められるのはメリットだったと思います。数多くの企画に参加し、実践を通して磨いた対応力が今の仕事をする上での自信につながっています。また、イベント運営に関するノウハウと音楽に関する専門知識の両方を持って

いることも強みだと思います。お客様のご要望を引き出し、ご満足いただける結果を残せたとき、お客様と一緒にイベントを作り上げた達成感が得られ、とてもやりがいを感じます。2017年の開館以来、これまで当ホールの主催公演は開催されていませんが、今後はさまざまな公演を企画する方向にあります。その日のために、今やるべきことの本質を見極めて、誠実に対応していくことを心掛けています。



細川 元之

2010年度
管楽器専攻（サクソフォーン）卒

住友生命いずみホール
業務部 レセプションマネージャー

学生時代の幅広い経験が強みに
人の心が通い合う演奏会の実現が目標

学生時代から住友生命いずみホールにアルバイトで関わり、現在は正職員としてホール所属のレセプションist約45人を統括するマネージャーを務めています。私を含め3人のマネージャーが年間約200公演の接客業務だけでなく、コンサート主催者との調整や、ホールに関わる多様なスタッフと連携してコンサートホールを運営しています。また、レセプションistの採用・研修も私たちの仕事。コンサートに来るお客様に心地よく過ごしていただけるよう、研修を通して意

思統一を図っています。大学時代は演奏だけでなく、自主公演の企画やステージマネージャーのアルバイトも経験しました。コンサートを作る上で、演奏者・裏方・観客、それぞれの立場で物事を見られるのは大きな武器。主催者との打ち合わせでもその視点が生きています。現在の職場は、幅広い業務を担当しなければならず、新規プロジェクトでは部門をまたぐこともありますが、自分がや



りたいことをすぐに実現できるのはやりがい。そこでも、大学で鍛えられた自主性とコミュニケーション能力が活かされています。今後はもっと視野を広げ、ホールの運営に関わる業務全般を学んでいきたいと思っています。私の根底にあるのは“人が好き”という気持ち。新型コロナウイルスのまん延によって演奏会が次々と中止になる悲しい出来事も経験しましたが、音楽には人を元気づける力があります。演奏会を通じて人の心が通い合うような体験をお届けすることが今の目標です。



前田 瞳

2019年度
ミュージックコミュニケーション専攻卒

(株) JTB コミュニケーションデザイン
豊中市立文化芸術センター 事業課

大学時代に学んだ視点を軸に
多彩な切り口でホールファンを増やしたい

(株) JTB コミュニケーションデザインが指定管理者となっている豊中市立文化芸術センターの事業課で、自主事業や主催公演の企画運営に携わっています。企画立案からアーティストとの打ち合わせ、広報や予算管理、イベント当日にレセプションistとしてお客様対応を担当することもあります。ミュージックコミュニケーション専攻では、企画書の書き方や出演者のブッキング、当日までの流れなどイベント企画のノウハウを、実践を通して学んできました。今の職



場では一人一人に求められる仕事の幅も広いので、こうした学生時代の経験が生きていると実感します。また、アーティストと共に考えながらイベントを作り上げられるのは、大音でクラシック音楽や舞台芸術に触れてきたからこそ。学びの延長だった大学時代の企画と違い、手掛けるイベントの規模や予算が大きくなったからこそ難しさはありますが、一つ一つの公演を大切に、自分の仕事の幅を広げていきたいと思っています。

公共ホールの役割として、地域に暮らす人々との接点を作り、これまで文化芸術に関心のなかった人も足を運びたいかなるようなきっかけづくりが求められています。大学時代に学び、今も心がけている「何のための企画か」「お客様にとっての価値は何なのか」という視点を軸に、コンサートだけでなくワークショップや美術展、地域のアウトリーチ活動といったさまざまな切り口でホールのファンを増やすことが今後の目標です。



竹原 由香里

2013年度
声楽専攻卒

(公財) 西宮市文化振興財団
事業課 専門職員

音楽や文化芸術の面白さ
生まれ育ったまちで発信したい

歌うことが好きで入学した大音でしたが、オペラの知識が浅く、周囲との温度差を感じる日々。歌の道で生きていきたいという覚悟や情熱が見いだせず、焦りもありました。転機は、学生自主演奏会「レ・ミゼラブル」の舞台監督を務めることになった4年次の春。声楽専攻の先生方やプロの歌手が出演する公演に携わり、舞台を裏側から見ることの楽しさを知りました。しかし、当時は将来に対する具体的なビジョンがなく「ホールで働く」という選択肢があることも知りませ

んでした。大音卒業後、びわ湖ホールでオペラ制作助手などを経験し、制作スタッフと関わる中で改めて芸術を裏側から支える仕事の面白さを感じ、この道に進もうと決意しました。(公財) 神戸市民文化振興財団で約3年勤務した後、(公財) 西宮市文化振興財団に転職。現在は事業課の専門職員として西宮市民会館（アミティホール）をはじめとする市内各所での公演やアートイベントに携わっています。

私が生まれ育った西宮市に根差す団体、その職員として意識しているのは、「竹原由香里が担当するからこそ結果」を出すこと。やってみたいことはたくさんありますが、今、興味があるのは子ども向けの企画です。合唱祭のような市内の小学生が気軽に舞台上に立てる機会の創出や、仕事体験やホールの見学ツアーなどを通じて「こういう人たちがいて公演が成り立つ」ことを知るきっかけを作ってみようと考えています。



有料コンサート
「はて？サテ？サティ!？」



前田さんが携わったイベント



リーダーとして
企画全体を統括。
1から100まで
やり切った充実感。

2017年4月に誕生した学内プロダクション「epoch/(エポック)」では、さまざまな音楽イベントやプロジェクトに携わりながら、企画立案のコツやイベント運営方法を学びます。3年次には黒字化を目指す有料イベントを通じてビジネス感覚も養っています。

作曲家エリック・サティの「生き方」を基にしたオリジナル物語を作成、大音教員によるピアノ演奏とプロの声優による朗読コンサートを企画しました。企画の立案から、アーティストや声優とのブッキング、脚本家との打ち合わせなど、企画リーダーとして全体を取りまとめました。1から100まですべてやったと言っても過言ではないぐらい、思い入れが強い企画です。

気軽にクラシックに親しめる機会を企画。
聴衆の姿に達成感を感じた。

MOT!のプレ・イヤーと位置付けられた2019年、フリンジイベントとして「安産の観音さま」中山寺を舞台にした大音管楽器専攻生によるコンサートを企画。モーツァルトの作品から選曲し、クラシックに親しみがない方も楽しめる工夫をこらしました。企画をまとめる大変さを感じましたが、公演中、妊婦の方がお腹を撫でながら鑑賞されている姿を拝見し、達成感を得ることができました。



田中さんが携わったイベント

阪急宝塚線沿線のコンサートホールや大学、関連施設を共通のテーマで結び、音楽を軸とした地域の新しい魅力創出を目指すMOT!。ミュージックコミュニケーション専攻内に実行委員会事務局を設置し、3・4年生が中心となって運営しています(2020年は中止)。



阪急宝塚線ミュージック駅伝MOT!
フリンジイベント
「胎教コンサートin中山寺」

「ステージに関わる全ての人を笑顔に」——それが私たちの原点。

舞台を裏側から支える面白さを知った、
ターニングポイントとも言える公演。

将来のビジョンが描けずいた大学時代、先輩から誘われて携わった公演の舞台監督補助で裏側から見る作品の面白さを知りました。レ・ミゼラブルは4年次の春ごろに舞台監督の依頼を受けました。就職活動を始める時期でもありましたが、「今しかできないこと」と覚悟を決め、全力で取り組みました。今の道に進むきっかけになったと言っても過言ではない公演です。

学生だけで作り上げるオペラ「Tutti」をはじめ、学生による自主的な演奏会や、企業・団体との連携によるコンサートなど演奏機会が豊富な大音。演奏者やキャストとしてだけでなく裏方として舞台に関わることで、その役割の大切さも学んでいます。



竹原さんが携わったイベント



学生自主公演「レ・ミゼラブル」



大山さんが携わったイベント



入学して初めて
携わった企画。
経験を通して、
多くの学びを得た。

音楽を通じたイベントから街づくりまで学ぶミュージックコミュニケーション専攻では、1・2年次に企画の立て方や劇場技術の基礎を学びます。それらの実践の場として、企業や行政と連携した無料イベントを企画し、体験を通じてノウハウを身に付けていきます。

少女の森プロジェクト



入学後、最初に携わった企画です。当初はミュージッククリエーション専攻の学生が作曲した曲を大音の学生が生演奏するという企画でしたが、ミュージックコミュニケーション専攻も加わり、JR大阪駅「時空の広場」での演奏や、豊中市立文化芸術センターでのクリスマスコンサートなどを実施。右も左もわからないまま始めたプロジェクトでしたが、経験を通して多くの学びがありました。



楽大阪音楽大学

大阪音楽大学短期大学部

キャリア支援センター

〒561-8555 大阪府豊中市庄内幸町 1-1-8 TEL : 06-6334-2251 FAX : 06-6334-2542

E-mail: career1@daion.ac.jp <https://www.daion.ac.jp/>

[住友生命いずみホール内観]